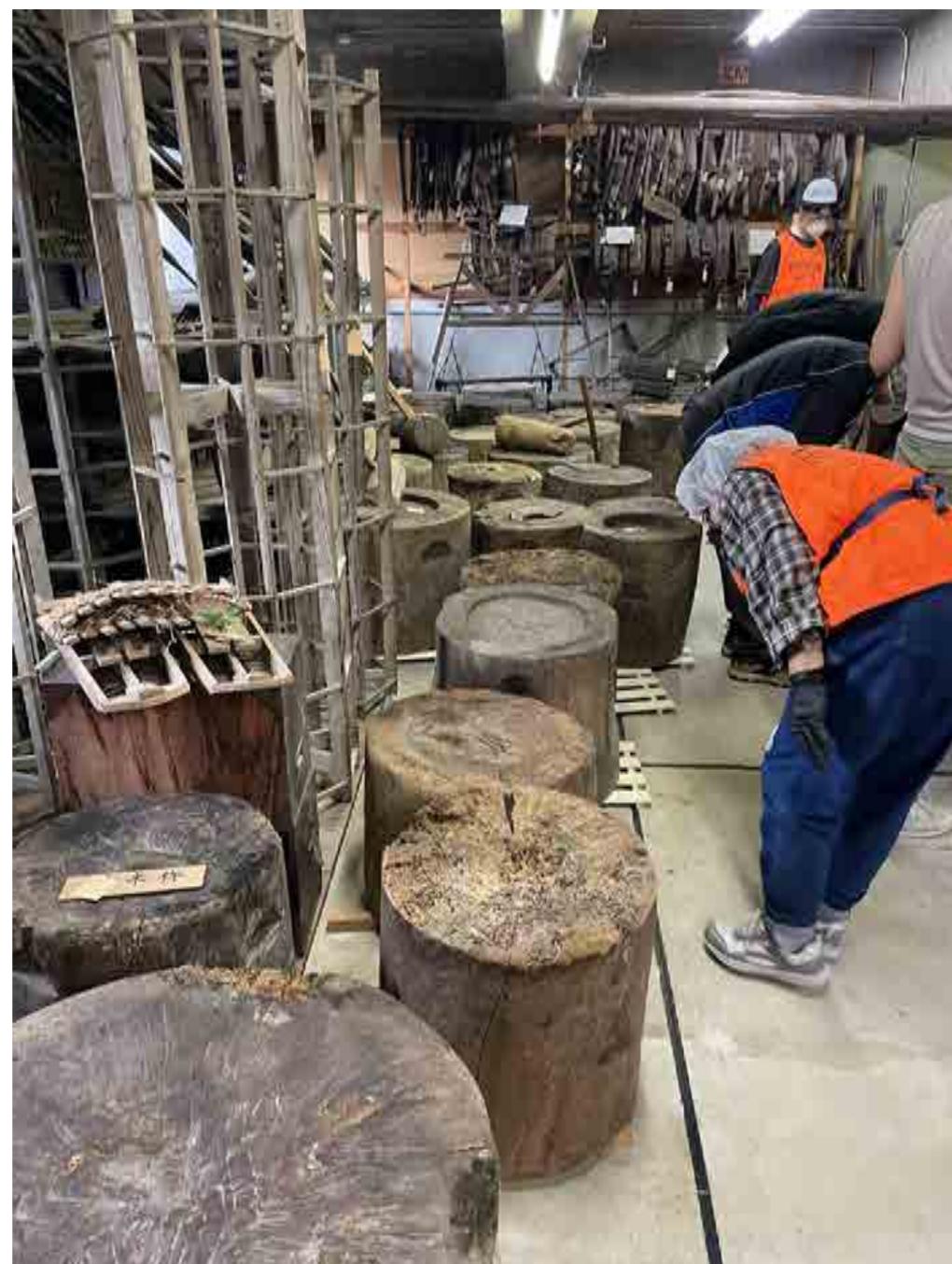


# 山形文化遺産防災ネットワークの活動報告 2025 (令和 7) 年

佐藤 真海

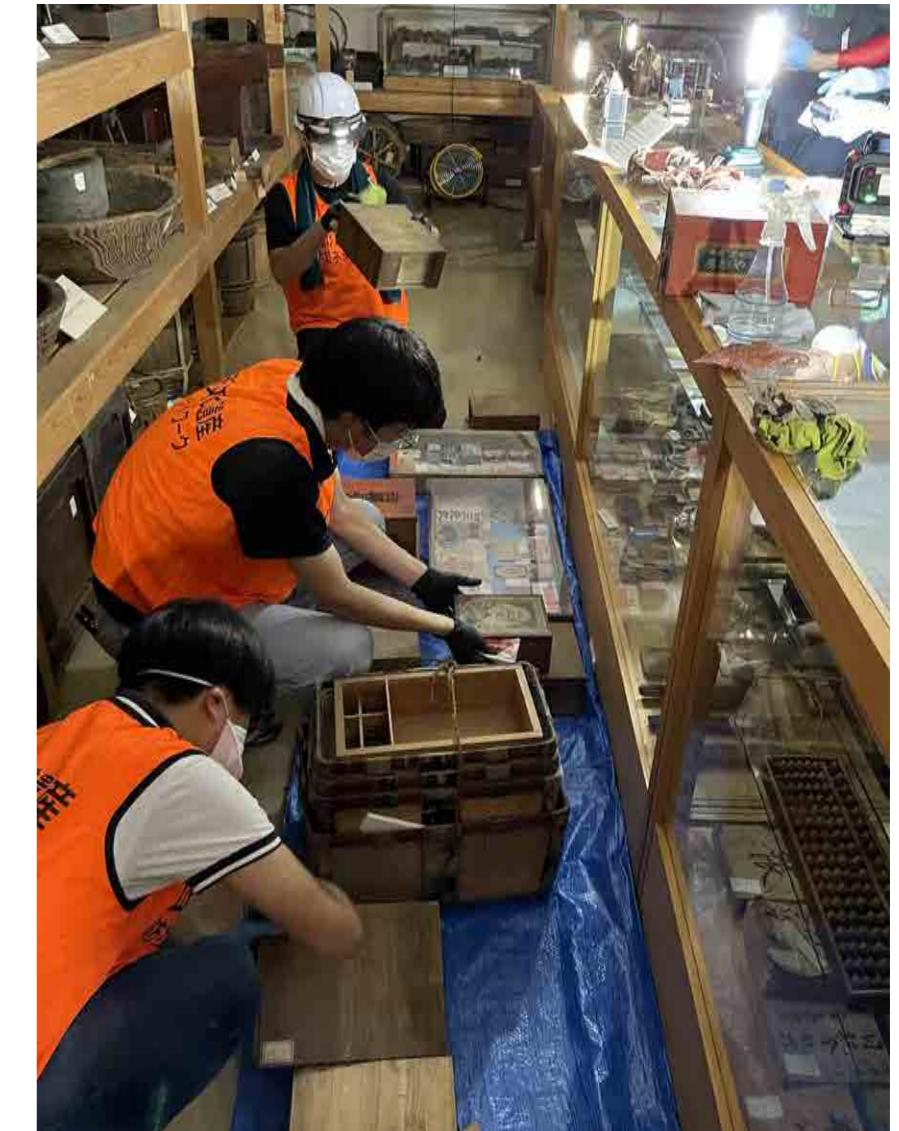
## 2024年7月豪雨被害 その後の活動

2024年7月25日に山形県北部を襲った豪雨によって、新庄ふるさと歴史センターでは地下の展示・収蔵空間が浸水し、市指定文化財「雪国の民具」12,000点のうち3,003点が水に浸かる被害があった。山形文化遺産防災ネットワークは、新庄市、山形県、国立文化財機構文化財防災センター、県博物館連絡協議会加盟館、山形大学、東北芸術工科大学、筑波大学、県埋蔵文化財センターらと連携し、文化財レスキューにあたった。活動を行い、水損資料の乾燥・クリーニング・除菌、また浸水した地下空間の清掃・除菌・環境改善を実施した。



【2025年9月のクリーニング作業】  
地下空間の一部で照明・電気が使えるようになった

【2024年8月の様子】  
停電のため  
暗く蒸し暑い環境で作業



2024年8月4日～11月4日で計6回にわたりレスキュー活動を行い、水損資料の乾燥・クリーニング・除菌、また浸水した地下空間の清掃・除菌・環境改善を実施した。

冬期間は低温のため安定した環境を維持できたが、発災から1年が経過し、夏期の温度・湿度の上昇とともにカビの発生・拡散リスクが高まったため、2025年7月8日に地下空間に置かれたままの脆弱な資料を地上へと搬出した。また9月9日に集中クリーニング作業を実施し、カビの発生がみられた資料をハケや掃除機でクリーニングし、エタノールを塗布して除菌した。再びカビが生えないよう、資料と床面の間にスノコを入れ、空気の流れができるように工夫した。地下空間のほかの箇所でも、清掃・除菌を実施した。新庄ふるさと歴史センターでは1階部分の大半で一般公開を再開したが、1階の一部と2階、そして地下空間は非公開のままであり、本格的な復旧・再開にはまだ時間がかかる。

## 研修会

会員のスキルアップと非常時の対応力強化のため、講師を招いた講義や実技の研修会を開催している。

1/23  
・パネルの下張り剥がし  
・新庄ふるさと歴史センター資料レスキュー活動報告会



3/30  
・拓本講習会  
岩坪充雄氏  
(日本近世書道史研究家)

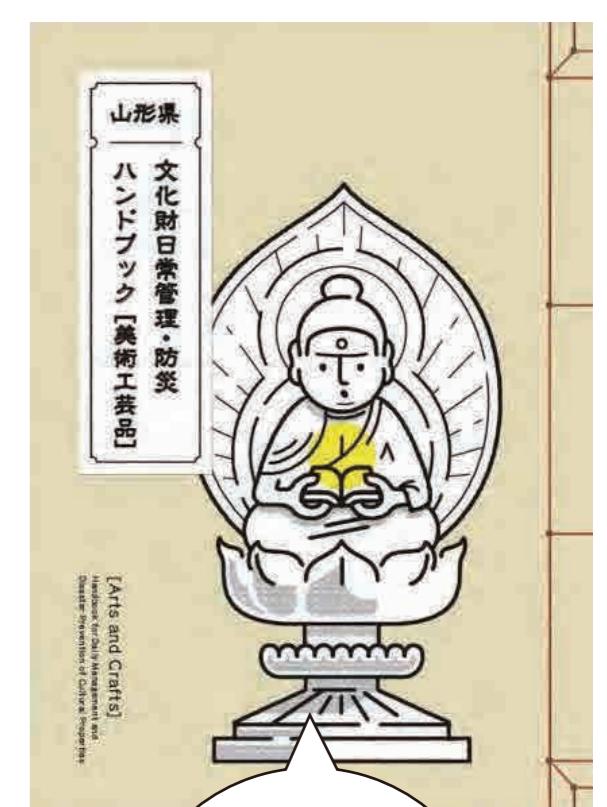


5/10  
・パネルの下張り剥がし  
・総会

11/24  
・歴史文化資料の保存と救済  
天野真志氏  
(国立歴史民俗博物館)  
・パネルの下張り剥がし

## 山形県文化財日常管理・防災研修会とハンドブック

2024年に山形県により山形ネットも編集に加わった『文化財日常管理・防災ハンドブック(美術工芸品)』が発行された。本ハンドブックを受けて、県の主催により「山形県文化財日常管理・防災研修会」が開催された。昨年の村山・庄内地域での開催に引き続き、今年は9/6に置賜地域(米沢市)、11/29に最上地域(新庄市)で行われた。本研修会では、文化財所蔵者などに向けて、東北芸術工科大学文化財保存修復研究センターと国立文化財機構文化財防災センターの専門家による講義や、県担当者による行政手続の説明が行われた。山形ネットも個別相談ブースを設置するとともに、これまでの活動紹介を行った。



ハンドブックはQRからダウンロードできます

